

**今日のトピック 原油価格の動向 (2017年3月)**

**3月初に調整したが、需給改善を背景に持ち直す見込み**

**ポイント1 OPECは協調減産を遵守  
協調減産の延長を検討へ**

【主要産油国の生産枠】

(単位：万バレル/日)

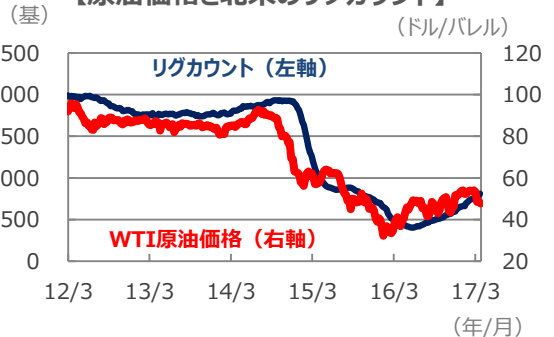
OPEC加盟国	生産量の上限	生産実績	
			上限との差
サウジアラビア	1,006	980	▲26
イラク	435	441	6
イラン	380	381	1
UAE	287	293	6
クウェート	271	271	▲0
<b>OPEC総計</b>	<b>3,250</b>	<b>3,196</b>	<b>▲54</b>

- 石油輸出国機構月報 (OPEC Monthly Oil Market Report) の2017年3月号によれば、同年2月のOPEC総生産量は日量3,196万バレル、前月比▲14万バレルとなりました。
- 16年11月末のOPEC総会で合意した原油生産量の上限である同3,250万バレルとの比較では、同54万バレル低い水準です。これまでのところ協調減産は遵守されているといえるでしょう。
- 2月25日、26日に開催されたOPECと非OPEC主要産油国合同閣僚生産監視委員会では、協調減産の延長を検討する方針を決定しました。

(注1) 2016年11月末開催のOPEC総会での合意事項。  
 (注2) OPEC加盟国14カ国のうち生産量上位5カ国。OPEC総計にはその他加盟国も含まれる。単位は万バレル/日。  
 (注3) 生産実績は2017年2月の値。  
 (注4) 四捨五入の関係で、生産量上限と同実績の差が上限との差と一致しない場合があります。  
 (出所) OPEC「OPEC Monthly Oil Market Report」2017年3月号等を基に三井住友アセットマネジメント作成

**ポイント2 足元の価格は軟調に推移  
米国製油所の定期補修等による**

【原油価格と北米のリグカウント】



- 協調減産の合意を受け、原油価格はWTIで見ても、16年12月に1バレル当たり50ドル台に乗せましたが、17年3月に同50ドルを割り込みました。
- 主要産油国による減産にもかかわらず、シェールオイルの増産や製油所の定期補修により、米国で在庫が積み上がってきたことから、供給過剰感が強まったためです。

(注) データ期間は原油価格が2012年3月2日～2017年3月27日。リグ稼働基数が2012年3月2日～2017年3月24日、週次データ。WTIは原油価格の代表的な指標のひとつ。  
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**今後の展開 原油需給は良好、今後は堅調に推移しよう**

- 米国の製油所は、夏場のガソリン需要期に備え、毎年2月から3月にかけて稼働率を落として定期修理を行うため、この時期は精製量が抑えられ、原油在庫が積み上がりやすくなります。例年、4月頃から製油所の稼働率が上昇し始め、原油の需要が拡大、在庫は減少に向かいます。
- 需給動向から判断すると、協調減産が維持される限り、原油価格が大きく崩れる可能性は低そうです。一方、価格がバレル当たり55ドル～60ドルを超えると、シェールオイル生産が急拡大する可能性があり、上値の余地も限定的と考えられます。原油価格は同50ドル近傍での推移となる見通しです。

**ここもチェック! 2017年2月24日 資源価格の動向  
2017年2月22日 原油価格の動向 (2017年2月)**

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。